

2024年冬季ボーナス調査

2024年冬季のボーナス支給にあわせて、『支給推計調査』及び『アンケート調査』を実施しました(調査要領は4ページ、9ページ参照)。



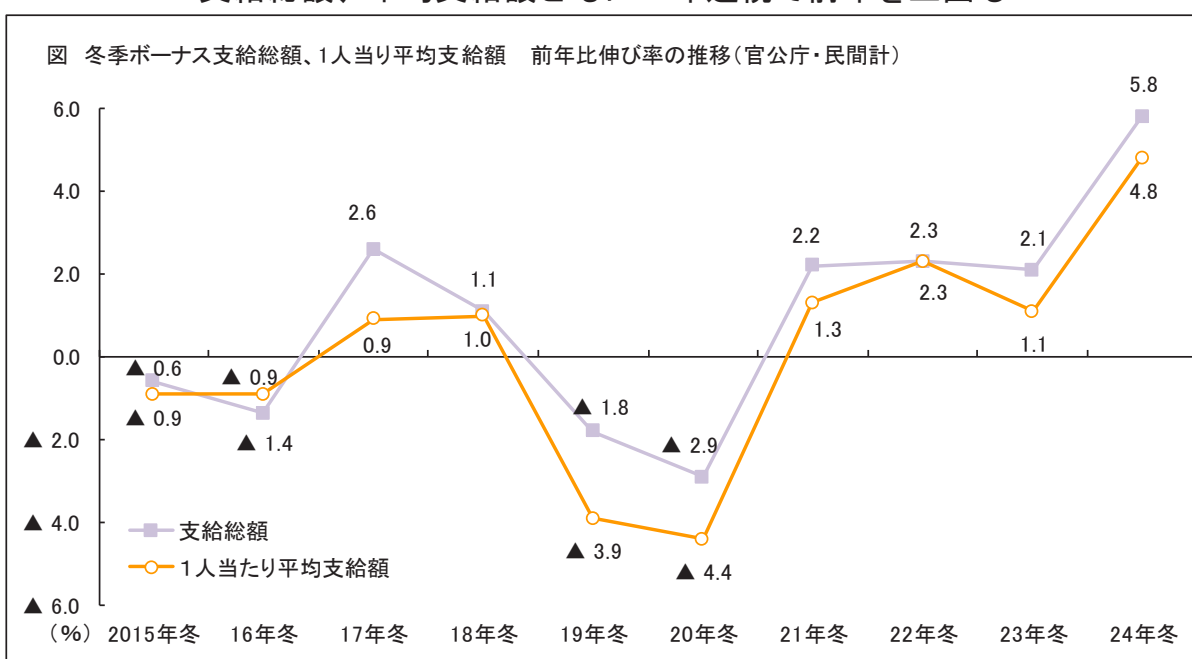
株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

2024年12月10日

I. ボーナス支給推計調査 (支給する側) (P. 3~4)

～支給総額、平均支給額ともに4年連続で前年を上回る～

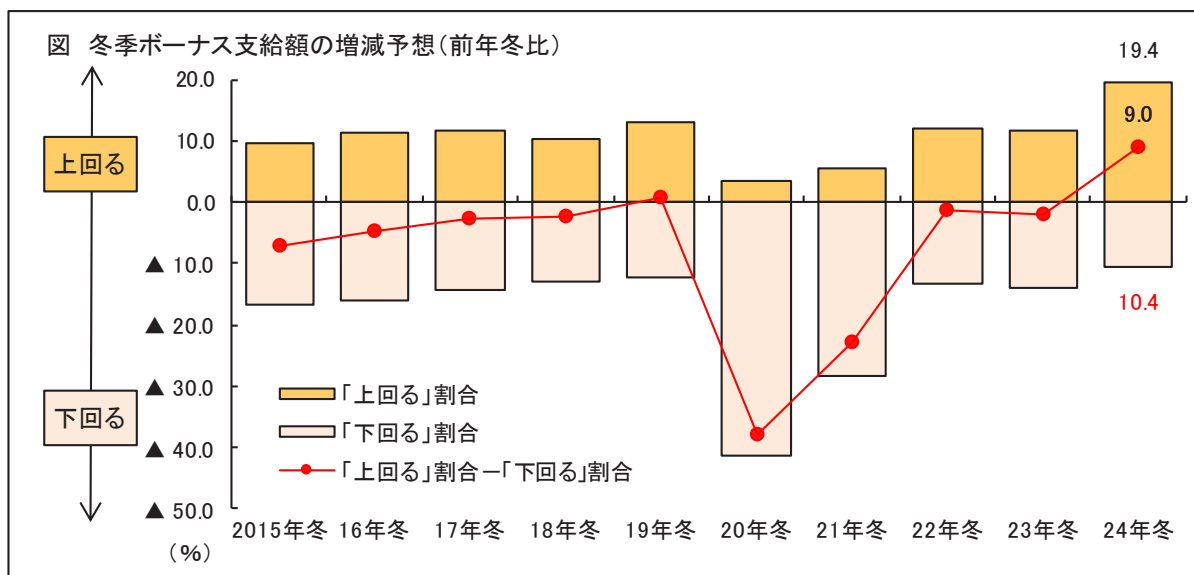
図 冬季ボーナス支給総額、1人当たり平均支給額 前年比伸び率の推移(官公庁・民間計)



II. ボーナスアンケート調査 (受け取る側) (P. 5~9)

～予想支給額は、5年ぶりに「上回る」が「下回る」を超過～

図 冬季ボーナス支給額の増減予想(前年冬比)



【結果概要】

I. 支給推計調査

(1) 支給総額

- ・官公庁は3年連続で、民間は4年連続で前年を上回る。

(2) 1人当たり平均支給額

- ・官公庁は前年比3.9%増加、民間は同5.6%増加。

(3) 民間企業の支給率動向（前年冬比）

- ・全産業で「上回る」が「下回る」を7.0ポイント超過。

II. アンケート調査

(1) 支給額の増減予想（前年冬比）

- ・全体では、「上回る」割合が19.4%となった（前年冬比7.6ポイント増加）。
- ・「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は9.0と、5年ぶりに「上回る」が「下回る」を超過（前年冬比11.1ポイント増加）。

(2) 予想支給額

- ・『60万円以上』の割合が23.6%となった（前年冬比7.7ポイント増加）。
- ・全体としては昨年を上回る傾向がみられ、高い金額区分ほど「上回る」割合が多くなった。

(3) 使い道

- ・「預貯金」の割合が最多。
- ・「借入金返済」が前年冬と比べ最も増加。

(4) 貯蓄する目的

- ・「老後の生活への備え」が例年通り最多。

(5) 運用方法

- ・銀行の預金金利上昇などを背景に、「銀行定期預金」が増加。

I. ボーナス支給推計調査

～支給総額、平均支給額ともに4年連続で前年を上回る～

2024年冬季のボーナス支給額・支給率などを、山陰両県に事業所を置く、官公庁および常時30人以上雇用する民間事業所を対象に、調査・推計しました。

1. 支給総額 ～官公庁は3年連続で、民間は4年連続で前年を上回る～

	山 陰		鳥取県		島根県	
	(億円)	前年比(%)	(億円)	前年比(%)	(億円)	前年比(%)
全 体	1,116	5.8	454	2.9	662	7.9
官公庁	362	3.6	155	4.1	208	3.3
民 間	754	6.9	300	2.2	454	10.2

* 四捨五入の関係から合計が一致しないことがある、以下同。

山陰両県の2024年冬季ボーナス支給総額は、約1,116億円と推計されます。

これは、前年冬のボーナス支給総額（推計値約1,055億円）に比べ5.8%増加となりました。

官公庁・民間別にみると、

- ・官公庁は、前年冬に比べ3.6%増加となりました。支給総額には、勧告※による支給率の引き上げなどが影響しました。

※国家公務員は人事院勧告、県職員は人事委員会勧告。勧告される支給率は年間であり、夏季・冬季とも同じ割合で適用されるとは限らない。

- ・民間は、前年冬に比べ6.9%増加となりました。県別では鳥取県が前年冬比2.2%増加、島根県が同10.2%増加となりました。

支給対象者数の増加に加え、ベースアップや一部企業での支給率引き上げなどが、支給総額の増加に寄与したと考えられます。

2. 1人当たり平均支給額 ～官公庁は前年比3.9%増加、民間は同5.6%増加～

	山 陰※		鳥取県		島根県	
	(千円)	前年比(%)	(千円)	前年比(%)	(千円)	前年比(%)
全 体	457	4.8	422	2.4	485	6.5
官公庁	796	3.9	761	4.7	824	3.3
民 間	380	5.6	343	1.5	408	8.4

※加重平均

1人当たりの平均支給額（推計値）は全体で457千円と、前年冬に比べ4.8%増加しました。

官公庁・民間別にみると、

- ・官公庁は、約796千円と、前年冬に比べ3.9%増加しました。県別では、鳥取県で前年冬

比4.7%増加、島根県は同3.3%増加しました。

- ・民間は、約380千円と、前年冬に比べ5.6%増加しました。

県別では、鳥取県は前年冬比1.5%増加、島根県は同8.4%増加しました。

3. 民間企業の支給率動向 ～全産業で「上回る」が「下回る」を7.0ポイント超過～

(単位：％、太数字は今回調査、()内は2024年夏季、「」内は2023年冬季)

	上回る			前年と同じ			下回る		
全産業	12.8	(12.8)	「11.6」	81.4	(79.3)	「79.8」	5.8	(7.8)	「8.5」
製造業	19.6	(19.4)	「16.0」	70.7	(70.9)	「70.4」	9.8	(9.7)	「13.6」
土木・建設業	7.7	(5.4)	「8.5」	88.5	(87.5)	「85.1」	3.8	(7.1)	「6.4」
卸・小売業	8.0	(12.5)	「8.9」	87.5	(76.3)	「88.6」	4.5	(11.3)	「2.5」
その他	13.3	(11.4)	「11.7」	81.8	(83.5)	「78.6」	4.8	(5.1)	「9.7」

民間企業の支給率を前年と比較すると、全産業では、「上回る」が12.8%、「前年と同じ」が81.4%、「下回る」が5.8%となり、「上回る」が「下回る」を7.0ポイント超過しました。

業種別では、いずれも「上回る」が「下回る」を超過し、なかでも製造業では「上回る」が「下回る」を9.8ポイント超過しました。

業種別の特徴

- ・「**製造業**」では、「上回る (19.6%)」が「下回る (9.8%)」を超過しました。原材料価格や労務費上昇分の製品価格への転嫁などを背景に、金属関連や食品関連の一部などで「上回る」の回答がみられました。
- ・「**土木・建設業**」では、「上回る (7.7%)」が「下回る (3.8%)」を超過しました。公共工事が堅調に推移していることや労務費単価の引き上げなどを背景に、「上回る」の回答が多くみられました。
- ・「**卸・小売業**」では、「上回る (8.0%)」が「下回る (4.5%)」を超過しました。業績の改善などを背景に、小売業を中心に「上回る」の回答が多くみられました。
- ・「**その他**」では、「上回る (13.3%)」が「下回る (4.8%)」を超過しました。情報通信や医療・福祉で「上回る」の回答が多くみられました。

【調査要領】

- ・官公庁については、ヒアリング、推計等により算出しています。民間については「経済センサス」、「毎月勤労統計調査地方報告」、事業所へのヒアリング (397 先) 等をもとに推計しました。
- ・なお、民間の前年対比の伸び率を算出するに当たっては、2023 年冬季、2024 年冬季ともに回答があった先を抽出し算出しました。このため、2023 年冬季の支給総額と 1 人当たり平均支給額は、それぞれ 2023 年冬季に発表した金額と異なっています。

Ⅱ. ボーナスアンケート調査

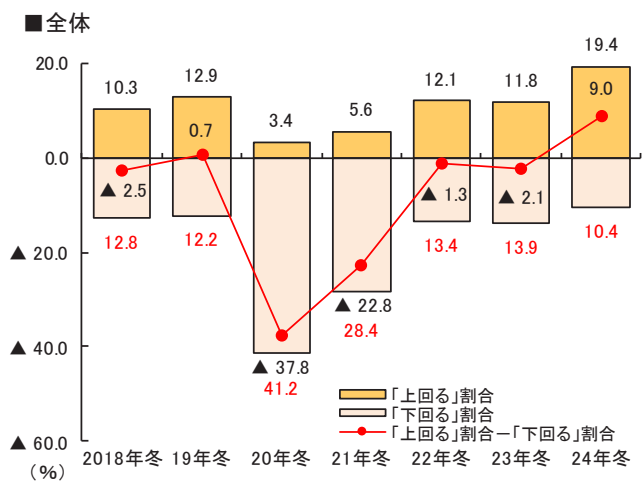
設問1. 今年の冬のボーナス支給額は前年冬に比べどうなると予想されますか？

～全体では前年比 11.1 ポイント改善、
5年ぶりに「上回る」が「下回る」を超過～

① 全体

今年の冬のボーナス支給額について、前年冬と比較して「上回る」と予想する世帯割合*は、19.4%（前年冬比 7.6 ポイント増）、「下回る」は 10.4%（同 3.5 ポイント減）、「同じくらい」は 70.2%（同 4.0 ポイント減）となりました。

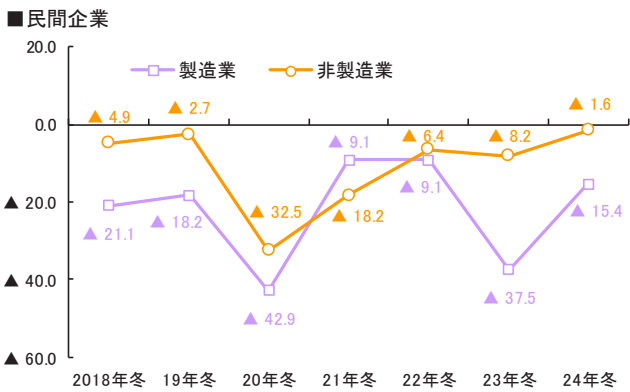
「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は 9.0 と 2 年ぶりに改善しました（前年冬比 11.1 ポイント改善）。図示していませんが、民間企業、官公庁ともに改善しました。



*上記割合は、「支給なし」を控除して算出している。「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の 14.4% となる（前年冬比 0.4 ポイント増加）。

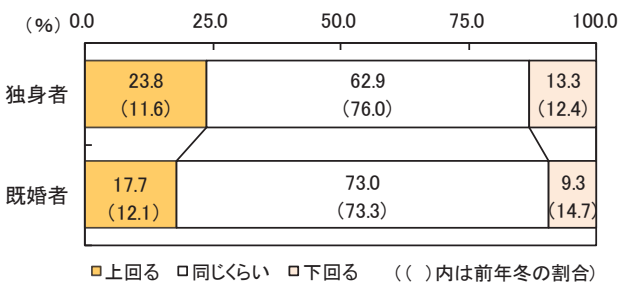
② 製造業・非製造業別

全体のうち民間企業に勤務する世帯について、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値を前年冬と比べると、製造業、非製造業ともに 2 年ぶりに改善しました（製造業：▲37.5→▲15.4、非製造業：▲8.2→▲1.6）。



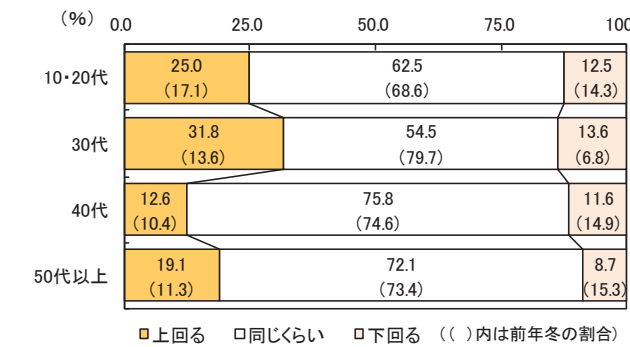
③ 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、前年冬と比べて「上回る」は独身者で 12.2 ポイント増加、既婚者で 5.6 ポイント増加し、「下回る」は独身者で 0.9 ポイント増加、既婚者で 5.4 ポイント減少しました。



④ 年代別

同じように年代別に「上回る」割合をみると、10・20 代が 25.0%、30 代が 31.8%、40 代が 12.6%、50 代以上が 19.1% となり、前年冬と比較すると全ての年代で増加しました（10・20 代：7.9 ポイント増加、30 代：18.2 ポイント増加、40 代：2.2 ポイント増加、50 代以上：7.8 ポイント増加）。「下回る」については、30 代以外の全ての年代で改善した。



※四捨五入の関係で合計が 100% とならない場合がある、以下同。

設問2. 今年の冬のボーナス支給額(税込)は、
どのくらいになると予想されますか？

～全体としては昨を上回る傾向がみられ、
高い金額区分ほど「上回る」割合が多くなる～

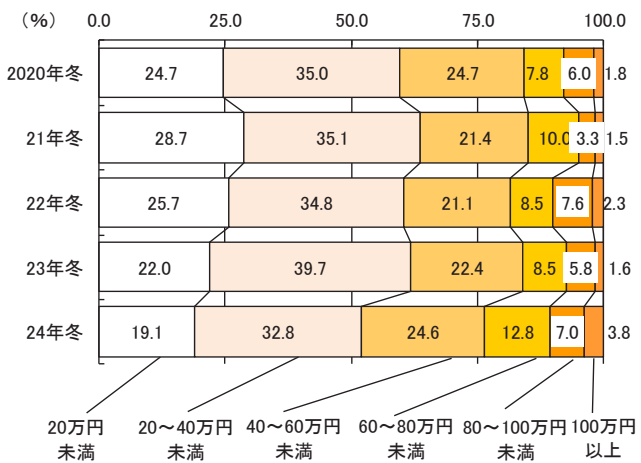
① 全体

今年の冬のボーナス予想支給額で最も多いのは「20～40万円未満 (32.8%) 」となり、以下、「40～60万円未満 (24.6%)」、「20万円未満 (19.1%) 」と続きました。

『40万円未満』(「20万円未満」、「20～40万円未満」の合計) が51.9%と約5割となりました。

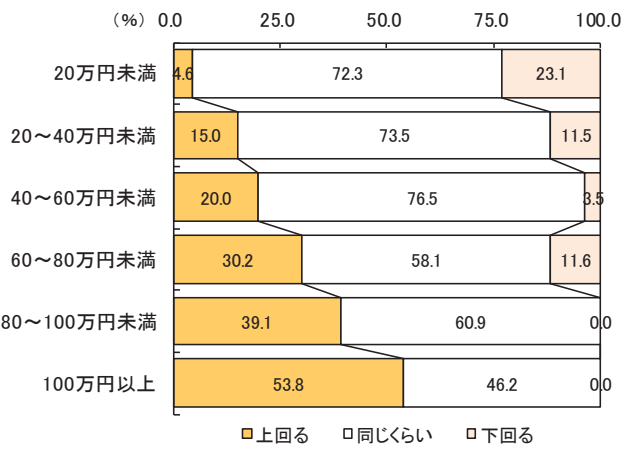
前年冬と比べ、「60～80万円未満(同4.3ポイント増)」が最も増加し、「20～40万円未満 (同6.9ポイント減)」が最も減少しました。

一方、『60万円以上』(「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計) についてみると、23.6% (前年冬比7.7ポイント増) と、前年冬と比べて増加しました。



② 支給額区分別増減予想の割合

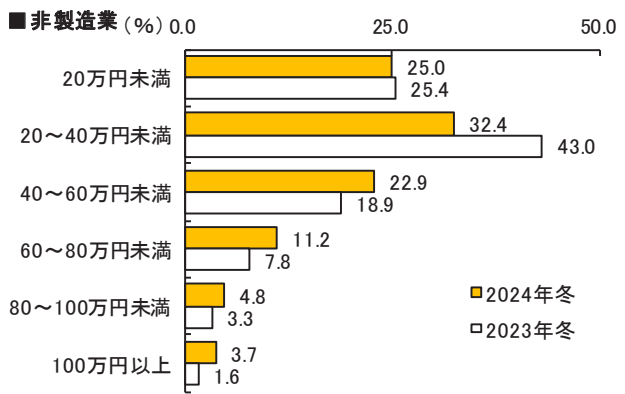
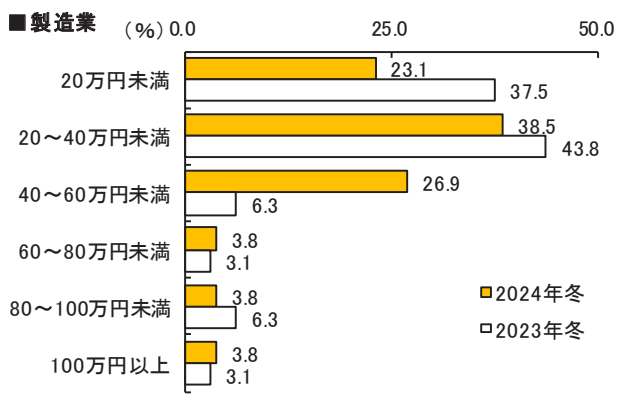
支給額区分別に、増減予想(設問1の回答)の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は「100万円以上 (53.8%)」で、以下、「80～100万円未満 (39.1%)」、「60～80万円未満 (30.2%)」と続きました。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満 (23.1%)」で、以下、「60～80万円未満 (11.6%)」、「20～40万円未満 (11.5%)」と続きました。



③ 製造業・非製造業別

製造業・非製造業別にみると、前年冬と比べ、製造業は「40～60万円未満 (26.9%、前年冬比20.6ポイント増)」が最も増加し、「20万円未満 (23.1%、同14.4ポイント減)」が最も減少しました。

非製造業は「40～60万円未満 (22.9%)」が、4.0ポイント増と最も増加し、「20～40万円未満 (32.4%、同10.6ポイント減)」が最も減少しました。



設問3. 今年の冬のボーナスはどのようにお
使いになりますか？

～「借入金返済」や「住宅補修・改築」などが
前年冬と比べ増加～

① 全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、上位3項目は「預貯金 (44.2%)」、「生活費補てん (21.1%)」、「借入金返済 (9.7%)」となり、前年冬と同様の順位となりました。

前年冬と比べると（その他を除く、以下同）、「借入金返済 (9.7%、前年冬比 1.1 ポイント増)」、「住宅補修・改築 (2.2%、同 0.7 ポイント増)」などの割合が増加した一方、「学費 (3.9%、同 3.2 ポイント減)」、「耐久消費財の購入 (4.5%、同 0.3 ポイント減)」などの割合が減少しました。物価高の影響により生活費の補てんや支給額増加を見込んでの借入金の返済などの割合が高まる傾向がうかがわれました。

② 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなりました。

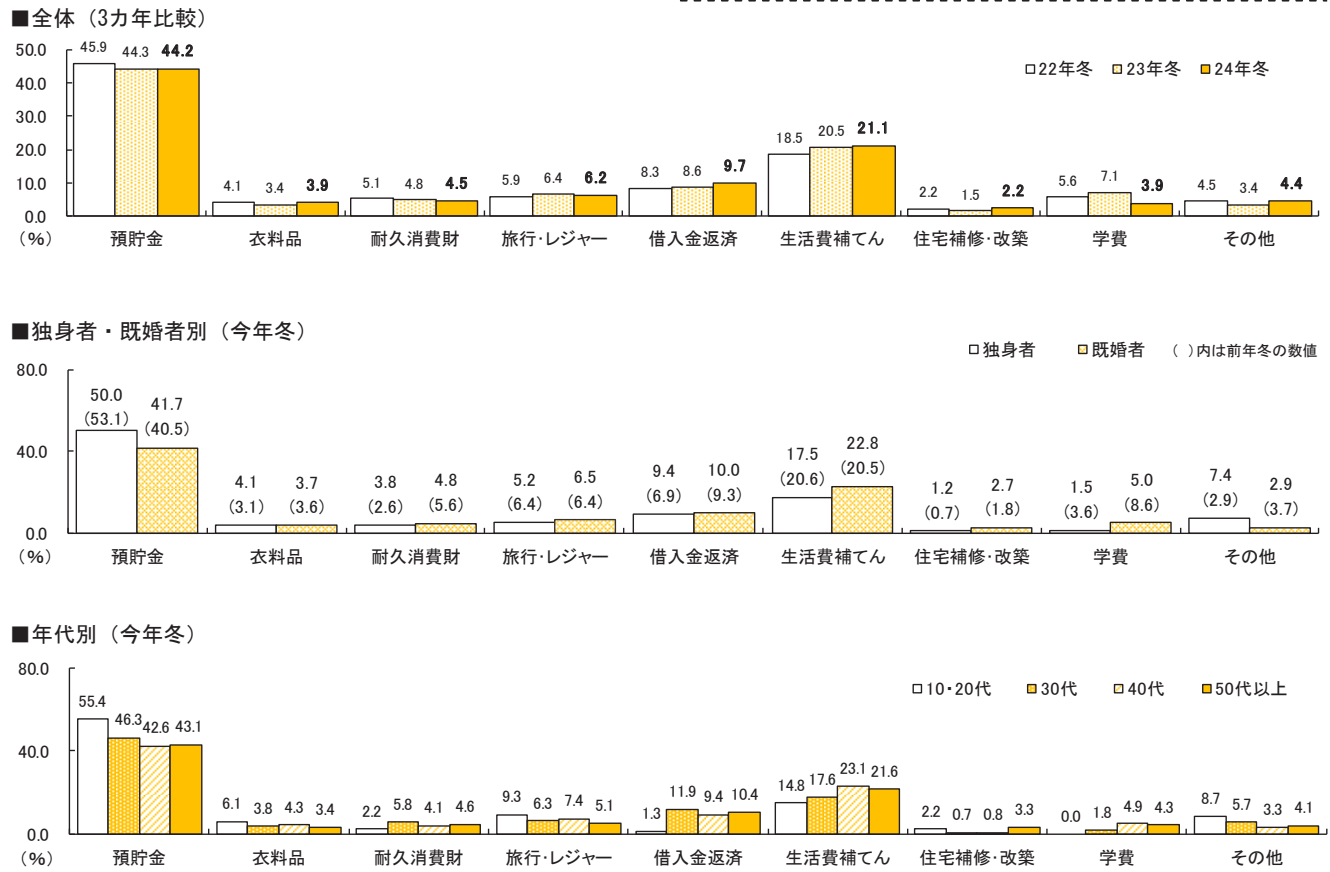
また、前年冬に比べ最も増加した項目は、独身者は「借入金返済 (9.4%、前年冬比 2.5 ポイント増)」、既婚者は「生活費補てん (22.8%、同 2.3 ポイント増)」となり、最も減少した項目は、独身者が「預貯金 (50.0%、同 3.1 ポイント減)」、「生活費補てん (17.5%、同 3.1 ポイント減)」、既婚者が「学費 (5.0%、同 3.6 ポイント減)」となりました。

③ 年代別

年代別にみると、すべての年代で「預貯金」の回答割合が最も高くなりました。

次いで高い回答割合は、すべての年代で「生活費補てん (10・20代 14.8%、30代 17.6%、40代 23.1%、50代以上 21.6%)」となりました。

「その他」の回答として、「車両関係費」、「保険費用」等がありました。



設問4. ボーナスを貯蓄（投資）する主な目的は何ですか（3つまで）？

～「老後の生活への備え」が例年通り最多～

① 全体

ボーナスを貯蓄（投資）する場合の主な目的（3つまで）をたずねたところ、上位5項目は「老後の生活への備え（60.3%）」、「特に目的はないが安心だから（39.4%）」、「耐久消費財の購入（36.2%）」、「旅行・レジャー資金（27.4%）」、「病気・災害への備え（25.7%）」となりました。

上位5項目の前年冬との比較では、「病気・災害への備え（前年冬：6位→今年冬：5位）」が順位を上げました。前年冬に比べ最も増加した回答は「老後の生活への備え（3.8ポイント増）」、最も減少した回答は「特に目的はないが安心だから（2.6ポイント減）」となりました。

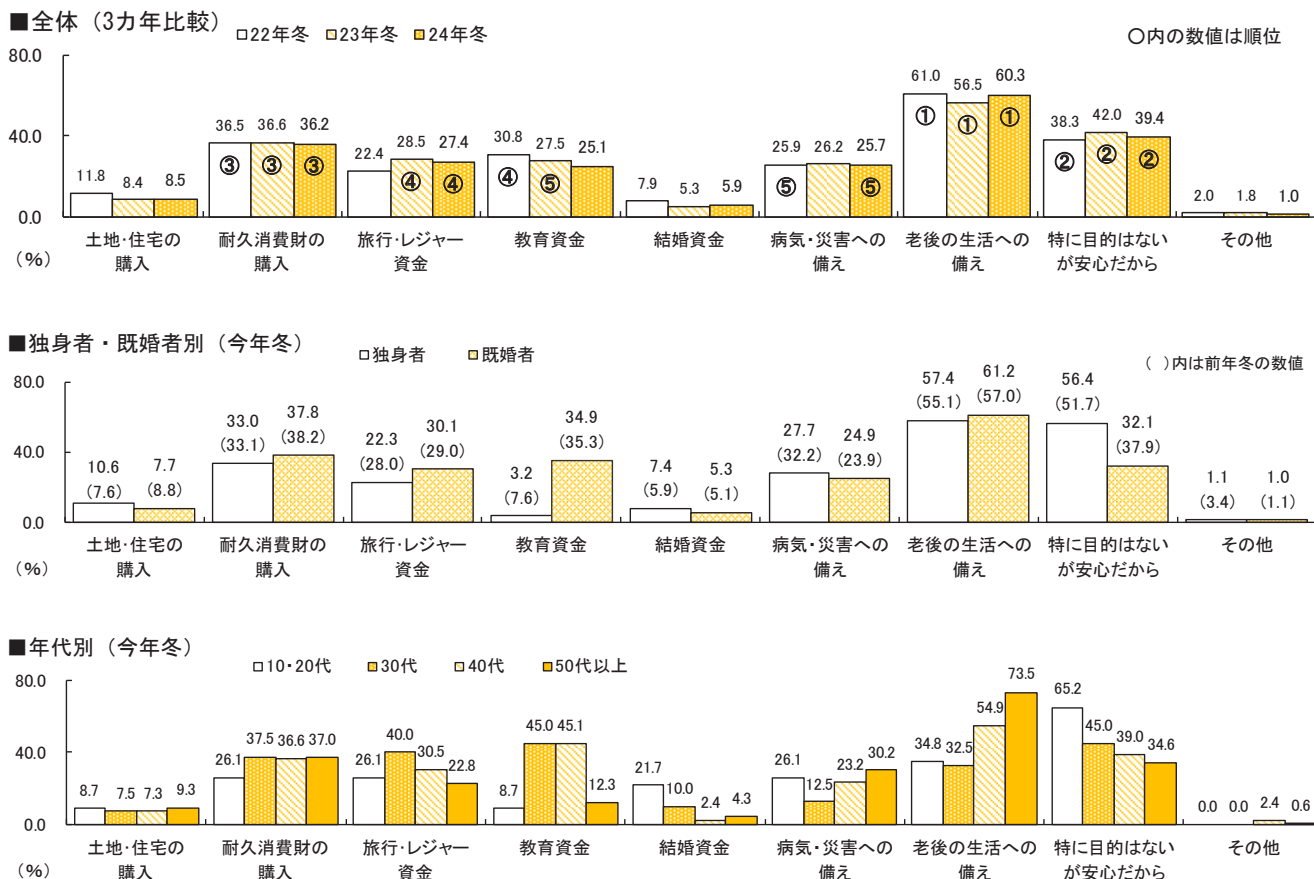
② 独身・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者、既婚者ともに「老後の生活への備え（独身者：57.4%、既婚者：61.2%）」となりました。

また、前年冬に比べ最も増加した回答は、独身者は「特に目的はないが安心だから（56.4%、前年冬比4.7ポイント増）」、既婚者は「老後の生活への備え（61.2%、同4.2ポイント増）」となりました。

③ 年代別

年代別にみると、最も多かった回答は、10・20代が「特に目的はないが安心だから（65.2%）」、30代が「特に目的はないが安心だから（45.0%）」と「教育資金（45.0%）」、40代と50代以上が「老後の生活への備え（40代：54.9%、50代以上73.5%）」となりました。



設問5. 冬のボーナスを貯蓄（投資）される場合
どんな方法でされますか(複数回答)?

～銀行の預金金利上昇などを背景に、
「銀行定期預金」が増加～

① 全体

ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「銀行普通預金（69.6%）」となり、以下、「銀行定期預金（31.4%）」、「投資信託（15.9%）」、「財形貯蓄（9.4%）」、「ゆうちょ銀行通常貯金（9.1%）」と続きました。

前年冬に比べ最も増加した回答は「銀行定期預金（31.4%、前年冬比 6.4 ポイント増）」、最も減少した回

答は、「銀行貯蓄預金（5.5%、同 4.2 ポイント減）」となりました。

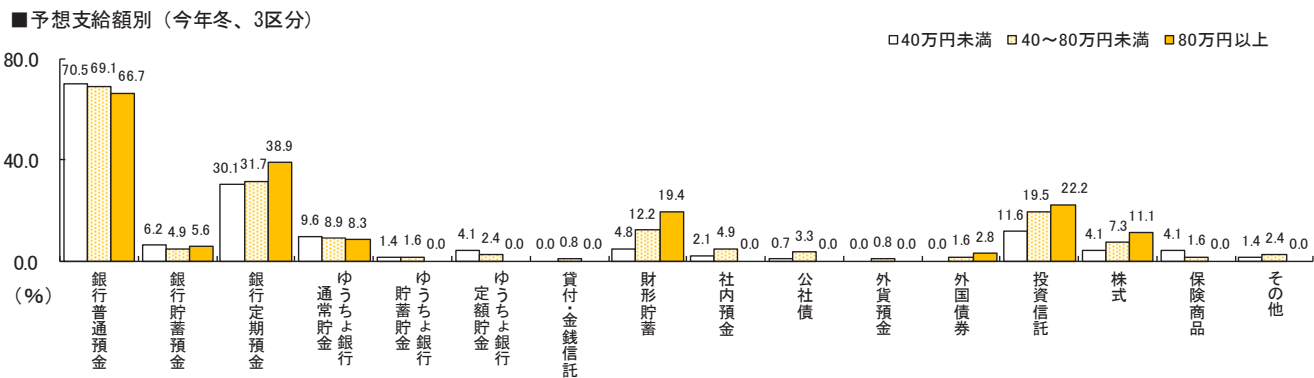
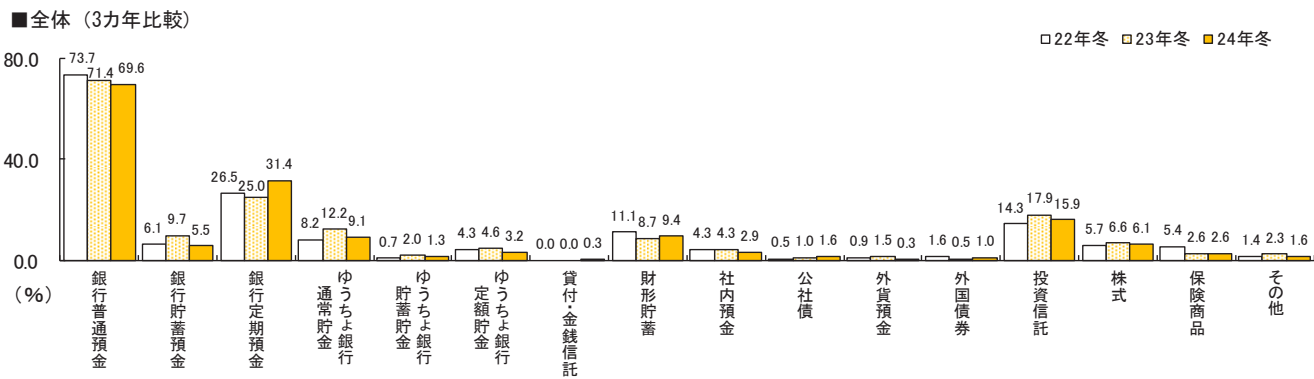
リスク性商品については、「公社債（1.6%、同 0.6 ポイント増）」、「外国債券（1.0%、同 0.5 ポイント増）」などが増加し、「投資信託（15.9%、同 2.0 ポイント減）」、「株式（6.1%、同 0.5 ポイント減）」で減少しました。

総じてみると、銀行の預金金利の上昇などを背景に、「銀行定期預金」への選好が強まったと考えられます。

② 予想支給額別

予想支給額別（3区分）にみると、すべての金額階層区分で「銀行普通預金」が最も多くなりました。

予想支給額が高い人ほどリスク性商品である「投資信託」や「株式」などで運用を行う傾向がみられました。



【調査要領】

1. 期 間：2024年11月1日～11月18日
2. 対 象：鳥取県・島根県在住の給与所得世帯（民間企業、官公庁、各種団体等ほか）
3. 調査方法：当行営業店等の店頭にてwebアンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収（依頼・配布件数：2,480）
4. 回 答 数：有効回答数440（回収率17.7%）（県別内訳：鳥取県170、島根県264、不明6）

2024 年冬季ボーナス調査

発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

〒690-0062

島根県松江市魚町 10

TEL:0852-55-1000 FAX:0852-27-8249

2024 年 12 月

無断転載を禁ずる